

北海道支部ニュース第43号

日本分析化学会 北海道支部 2011 年 9 月

支部長挨拶

日本分析化学会北海道支部長

大澤 雅俊

(北海道大学触媒化学研究センター)



今年度の支部長を仰せつかりました。入会以来約 20 年間幽霊会員だった私にどれだけのことができるか不安ですが、本支部のモットーである「粉骨砕身、滅私奉公」

の精神に則り、努力いたしますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、本年 3 月 11 日に東北地方で起こった大震災とそれに引き続いて起った東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、2 万人にも達する死亡者・行方不明者と多数の避難者が出るという想像を絶する大きな被害が出ました。北海道では、道東と函館の海岸寄りの一部を除いて、それほど大きな被害がなかったことは幸いでした。しかしながら、支部会員の中には、ご親族、ご友人が被災された方もおられると伺っております。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念いたします。

多数のプレートが接する場所に位置する我が国では地震と津波は避けられません。将来、もし北海道で今回のような大地震が起れば、支部会員皆様の研究室や職場でも甚大な被害を受ける可能性がありますので、

今のうちに十分な対策を考えておくことが必要かと思います。その場合、今回の大震災で多く聞かれた「想定外」ということを肝に銘じることが肝心です。大きな被害を受けた東北大学理学部化学科では、1987 年の宮城沖地震の経験から、ボンベ類は壁等に固定する、試薬は薬品保管庫に保管する、重量のある機器は低い階に、重量物を必要としない合成系の研究室は高い階にといった数々の対策がなされていたようですが、それにもかかわらず今回の大震災でも火災が発生し、NMR が転倒するなどの事故があったようです。火災に関しては薬品庫内での発生であったために大きな被害には至らなかったようですが、高い階での揺れが大きく、これが火災発生の原因の一つになったとのこと。また、非常ドアが開かなくなり、消防が火災発生場所に行くことができなかったといった「想定外」の状況が発生したようです。神ならぬ人間には「想定外」が常に付きまといますが、経験を活かすという知恵で何とか切り抜けるしかないようです。ただし、「天災は忘れたことに来る」という寺田寅彦の警句を持ち出すまでもなく、時間が経過すればそうした認識は薄れていきますので、今回の記憶が薄れないうちに対策を考えていただ

ればと思います。

原子力発電所の事故による放射能汚染は、われわれに科学・技術はどうあるべきかという問題も提起しました。これは政治、経済その他多くの要素が絡む大問題なので、つまらない私見を述べるつもりはありませんが、日本分析化学会が中心となって6月に京都で開催された ICAS2011 で、Analytical Sciences Facing Radioactive Pollutions と題する緊急シンポジウムが企画され、分析から、影響、対策などの広い観点から放射能の問題が議論されたことは、分析化学の立場から

何ができるかという方向性の一つを提示されたものとして評価すべきと考えます。また、当支部でも、専門知識を活用して放射能測定にご協力された方が多数おられたように伺っております。本紙面をお借りして、ご貢献に対して感謝申し上げます。

最後に、2013 年度の第 73 回分析化学討論会が当支部の担当で行われることが正式に決まりました。本年度中にこれに向けた取り組みが必要になりますので、支部会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

(おおさわ・まさとし)

これまでの終了行事報告

第 46 回氷雪セミナー:冬の恒例行事である氷雪セミナーが、2011 年1月 8 日(土)・9 日(日)の両日にかんぽの宿小樽(小樽簡易保険加入者ホーム:小樽市朝里川温泉)において、35 名の参加者で開催されました。＝写真右＝講演題目は、『「細胞の死」と「いき

ものの生」ーハエのハネ、おしり、そして脳ー』木村 賢一先生(北海道教育大)、『植物組織培養技術による機能性成分の生産』多葉田 誉先生(北海道三井化学株式会社 植物機能センター)、『電波望遠鏡で探る星間空間』徂徠 和夫先生(北海道大学 大学院



第 46 回 氷雪セミナー・小樽の様



第 27 回 緑陰セミナー・旭川の模様

理学研究院)、『天然無機質資源の利用と現状について』八幡 正弘先生(北海道立総合研究機構 地質研究所)でした。多彩な話題で、講演終了後も活発な議論がありました。また、講師も含めて懇親を深めることができました。(北海道教育大学・森田)

化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究

発表会:化学系学協会北海道支部 2011 年冬季研究発表会(共催:日本分析化学会・日本化学会・日本エネルギー学会・石油学会・電気化学会・腐食防食協会・表面技術協会の各北海道支部・触媒学会北海道地区)が、2011 年 2 月 1 日(火)・2 日(水)、北海道大学学術交流会館で開催されました。一般講演(口頭発表 100 件、ポスター発表 69 件)169 件、特別講演は、公立はこだて未来大学中垣俊之先生の「アメーバの行動にみる賢さとそれをもたらすダイナミクス」とサッポロビール 渡 淳二先生の「ビールのアート、サイエンス&テクノロジー」がありました。参

加登録者数は 389 名でした。懇親会は 2011 年 2 月 1 日(火)18:00~20:00 北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムで開催され、特別講演講師含め 49 名が参加しました。学生の講演に対し、講演賞(8 件)とポスター賞(5 件)が送られました。

(北大大学院工学研究院・坂入)

第 27 回緑陰セミナー:本セミナーは、7 月 2 日(土)・3 日(日)の両日、ビューサイドホテル雪の屋(旭川市)にて開催されました。本セミナーはこれまで青少年向け研修施設で行ってききましたが、利用時の制約や交通アクセスに不便があったため、今回は各参加団体のほぼ中間に位置し、公共交通機関を用いても送迎バスにより容易にアクセスできる旅館ホテルで行うことにしました。会場の変更にともない参加費がこれまでよりも大幅に高くなったため、参加者の減少が懸念されましたが、参加者数は例年通りの 61 名(講師を含む)でした。

第1日目に、大阪府大の久本秀明先生による「化学センサー・マイクロリアクター・そしてマイクロ分析システムへ」、佐藤 久先生(北大院工)による「環境工学における分析化学」、高橋あかね氏(オルガノ株式会社)による「オルガノの純水・超純水」、第2日目に坂入正敏先生(北大院工)による「金属表面の酸化皮膜の分析とその耐食性への役割」、中谷暢丈先生(酪農大)による「陰陽イオン類の同時分離計測と応用」の計5件の特別講演が行われ、活発な議論が行われました。また、第1日目には、ポスター発表(11件)も行われました。今回、学生ができるだけ参加する機会をつくるため、参加者全員の前で発表内容を短時間で紹介するフラッシュプレゼンテーションを導入しました。その後、どのポスターでも活発な質疑応答が行われていました。優秀な発表者を参加者全員に投票していただいた結果、水谷祐介君(北大院工)、立花直也君(北大院工)、森崎敦己君(北大院総合化学)が選ばれ、3名に大澤雅俊支部長より優秀ポスター賞が授与されました。第一日目の夕食後、交流会が開催されました。会場から見える旭川中心部のきれいな夜景も相まって交流会はとても盛り上がり、ホテルのご好意で予定の2時間からさらに1時間延長するほどでした。

今回、緑陰セミナーとしては豪華すぎるとのご意見も頂戴しましたが、本セミナーで実施したアンケートによると、今回の会場について9割近い方が良かったと評価しており、会費がやや高いものの3/4の方が今後もこのような会場が良いという回答でした。フラッシュプレゼンテーションについても2/3の方があるとよいという回答でした。今回の試みは大方成功であろうと自己評価しております。

ほかの多くの支部でも会場や参加費に関して同様の形態で若手企画を行っているようですが、今回の試みが次回以降の緑陰セミナーを開催するときの参考になればと思います。最後に、本セミナーの開催にあたりご協力を賜りました方々および日本分析化学会北海道支部に深く感謝申し上げます。

(北大大学院工学研究院・石田)

2011 夏期研究発表会:2011 夏期研究発表会は日本化学会北海道支部の主催、日本分析化学会、高分子学会、日本エネルギー学会、石油学会、有機合成化学協会各北海道支部、日本セラミックス協会東北・北海道支部、及び、触媒学会北海道地区の共催により7月23日(土)に室蘭市の室蘭工業大学にて開催されました。145件の一般講演と2件の特別講演が行われました。また、夜にはホテルサンルート室蘭において懇親会が行われ、異分野の研究者も交えて交流が深められました。(室蘭工業大学・田邊)

これからの行事予定

北海道支部公開セミナー:来る11月11日(金)、北海道大学水産学部第2研究棟W103 特別講義室(函館市港町3-1-1)において、公開セミナーが開催されます。北海道大学大学院地球環境科学研究院の鈴木光次先生が「分子指標を用いた海洋植物プランクトンの群集構造と生理活性の評価」と、北海道大学大学院水産科学研究院の酒井隆一先生が「海洋生物の生理活性物質の探査と分析」と題して講演されます。参加費は無料で事前登録も不要です。会員の皆様のご参加をお願いいたします。

(北大大学院水産科学院・久万)



平成23年度 支部役員



支部長	大澤 雅俊	北大触媒化学研究センター
副支部長	黒澤 隆夫 森田 みゆき	北海道医療大学 北海道教育大札幌校
庶務幹事	平間 祐志 叶 深	北海道立衛生研究所 北大触媒化学研究センター
会計幹事	鈴木 智宏 石田 晃彦	北海道立衛生研究所 北大大学院工学研究院
監査	伊藤 八十男 嶋津 克明	北海道立衛生研究所 北大大学院地球環境科学研究院
参与 幹事	23 名 51 名	
事務局	〒001-0021 札幌市北区北 21 条西 10 丁目 北海道大学触媒化学研究センター 日本分析化学会北海道支部 支部長 大澤 雅俊 TEL:011-706-9123 FAX:011-706-9124 E-mail:jsac-hb@w9.dion.ne.jp	





2011 CALENDAR



開催日	事業名	開催地	担当幹事
【2011 年】			
10 月上旬	2011 年度役員候補者選考委員会	札幌	
10 月下旬	第 2 回幹事会	札幌	
11 月予定	北海道地区化学教育研究協議会	札幌	豊田 和弘
11 月 11 日(金)	2011 年度公開セミナー	函館 札幌	久万 健志
11 月中旬予定	2012 年度学会賞等受賞候補者推薦及び 2011 年度北海道分析化学各賞受賞者 選考委員会	札幌	
12 月 25 日	支部ニュース第 44 号		上野 貢生 中谷 暢丈
【2012 年】			
1 月上旬予定	第 47 回冰雪セミナー	小樽	伊藤 慎二
2 月初旬予定	化学系学協会北海道支部 2012 年冬季 研究発表会 (2011 年度北海道分析化学各賞授賞式)	札幌 札幌	谷 博文
2 月下旬予定	審議会(第3回幹事会)	札幌	

2010 年度 北海道支部会計報告の概要

支 出		収 入	
会議費	57,868	支部費補助金	907,350
講演会費	20,000	印税収入	287,328
研究発表会費	280,000	受取利息	679
セミナー費	495,000	雑収入	155,208
書籍出版費(印税)	94,600	学会賞推薦委員会	0
書籍編集費	23,980	年会収入	0
印刷費	500		
通信運搬費	70,208		
旅費交通費	14,300		
事務・消耗品費	17,111		
人件費	240,000		
OA 関係費	4,284		
北海道分析化学賞等	42,097		
経費			
学会賞推薦委員会費	9,860		
特定預金収支差額	-99		
支出合計	1,369,709	収入合計	1,350,565

支部会員の欄

この欄では分析化学会北海道支部の転入や転出、新入会など会員に関する情報をお伝えします。会員に関する情報をお持ちの方は、支部ニュース編集委員までお知らせください。



編集後記

遅ればせながら、支部ニュース第 43 号をお届けいたします。ご執筆頂きました大澤支部長をはじめ執筆者の皆様には、この場を借りましてお礼申し上げます。編集委員の不手際により発行が遅れたことを心よりお詫び申し上げます。3 月に発生した東日本大震災は、東北や関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。改めて被災された方々にお見舞い申し上げます。日本分析化学会に所属している先生や学生の中にも研究を遂行する上で重大な被害を被った方もいらっしゃるかと推察します。また、原発事故に遭遇し、改めてエネルギーや環境に研究の重要性が増してきました。今年も残すこと3ヶ月程度です。震災や台風による被害など暗いニュースばかりでしたが、科学の力が明るい未来を創発するように、我々科学者の真価が問われる時代に突入したのではないかと思います。最後に、皆様のご健勝と研究活動のご発展をお祈り申し上げます。

(編集委員:上野 貢生、中谷 暢丈)

北海道支部ニュース第43号
日本分析化学会 北海道支部

◆ 事務局 ◆

〒001-0021 札幌市北区北 21 条西 10 丁目
北海道大学触媒化学研究センター
日本分析化学会北海道支部 支部長 大澤 雅俊
TEL:011-706-9123/FAX:011-706-9124
E-mail : jsac-hb@w9.dion.ne.jp

◆ 編集 日本分析化学会北海道支部
発行

◆ 発行日 2011.9.30